

○成分

1 源泉名 猪の倉温泉

2 温泉の泉質

炭酸水素ナトリウム (NaHCO₃) メタケイ酸 (H₂SiO₃)

3 泉温 源泉 19.7℃ 使用位置 42℃

4 温泉の成分 試料1Kg中の成分・分量及び組成

(イ) 陽イオン

成分	ミリグラム (mg)
ナトリウムイオン (Na ⁺)	116.1
カリウムイオン (K ⁺)	0.6
アンモニウムイオン (NH ₄ ⁺)	0.2
カルシウムイオン (Ca ²⁺)	0.3
鉄 (II) イオン (Fe ²⁺)	0.1
アルミニウムイオン (Al ³⁺)	0.1
陽イオン 計	117.4

(ロ) 陰イオン

成分	ミリグラム (mg)
フッ化物イオン (F ⁻)	0.7
塩化物イオン (Cl ⁻)	8.5
硫酸イオン (SO ₄ ²⁻)	28.2
炭酸水素イオン (HCO ₃ ⁻)	187.3
炭酸イオン (CO ₃ ²⁻)	28.2
ホウ酸イオン (BO ₂ ⁻)	2.9
陰イオン 計	255.8

(ハ) 遊離成分

非解離成分

成分	ミリグラム (mg)
メタケイ酸 (H ₂ SiO ₃)	52.7
非解離成分 計	52.7

(二) 溶存物質 (ガス性のものを除く)	: 0.43g/kg
成分	ミリグラム (mg)
遊離二酸化炭素(CO ₂)	0.2
溶存ガス成分 計	0.2
成分総計	0.43g/kg

(ホ) その他微量成分 (mg/kg 定量下限値: 0.001mg/kg)

成分	検出濃度	成分	検出濃度
リチウム	0.008銅		検出せず
ストロンチウム	0.001マンガン		0.004
総ヒ素	検出せず鉛		検出せず
総水銀	検出せずカドミウム		検出せず

判定

温泉法第2条別表中に示された炭酸水素イオン (HCO₃⁻) 及びメタケイ酸 (H₂SiO₃) の項で温泉法の温泉に適応する。

温泉の分析年月日

平成20年12月2日

分析者 (財) 三重県環境保全事業団 調査部環境分析課 古川 浩司

○ 禁忌症及び入浴上の注意

浴用の禁忌症

急性疾患 (特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病
呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患
妊娠中 (特に初期と末期)

入浴の方法及び浴用上の注意事項

ア. 温泉療養を始める場合は、最初の数日の入浴回数を1日あたり1回程度とすること。

その後は1日あたり2回ないし3回までとする。

イ. 温泉療養のための必要期間は、おおむね2日ないし3週間を適用とすること。

ウ. 温泉療養開始後おおむね3日ないし1週間前後に湯あたり (湯ざわりまた浴場反応) が現れることがある。

「湯あたり」の間は、入浴回数を減し又は入浴を中止し、湯あたり症状の回復を待つこと。

エ.以上のほか、入浴には次の諸点について注意すること。

(ア) 入浴時間は、入浴温泉により異なるが、初めは3分ないし10分程度とし、慣るにしたがって延長してもよい。

(イ) 入浴中は、運動浴の場合は別として一般には安静を守る。

(ウ) 入浴後は、身体に付着した温泉の成分を水で洗い流さない(湯ただれを起こしやすい人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分をふき取るのがよい)。

(エ) 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守る。

(オ) 次の疾患については、原則として高温浴(42℃以上)を禁忌とする。

イ 高度の動脈硬化症 □ 高血圧症 ハ 心臓病

(カ) 熱い温泉に急に入るとめまい等を起こすことがあるので十分注意をする。

(キ) 食事の直前・直後の入浴は避けることが望ましい。

(ク) 飲酒しての入浴は特に注意する。

オ.加水	していません
加温	源泉温度が低いので入浴に適した温度に保つため加温しています。
循環ろ過装置	浴槽内の温度を均一に保つため、循環装置を使用しています。
消毒方法及び消毒処理	衛生管理のため、塩素系薬剤を使用しています。 (シャワーは除く)
入浴剤	使用していません

禁忌症決定年月日・・・平成20年12月8日